

2 ロゼッタネット仕様による技術情報の提供

Providing with Product Information in Accordance with RosettaNet Specification

小田 敏文	Toshifumi Oda	コネクタ事業部	技術情報システム部	マネージャー
前田 誠士	Seiji Maeda	コネクタ事業部	技術情報システム部	主任
廣瀬 雅孝	Masataka Hirose	情報システム部		マネージャー
		兼コネクタ販売推進本部業務推進部		マネージャー
武藤 裕貴	Hiroki Muto	コネクタ販売推進本部業務推進部		主任

キーワード：IT, CS, CALS

要 旨

日本の競合メーカーに先駆けて、e-ビジネスの一環として参画中のロゼッタネットジャパンの活動を通して得た情報を紹介すると共に、そのロゼッタネット仕様の中の一つである技術情報の提供のシステムを得意先と共同で構築し、実証実験を行いました。

SUMMARY

As part of e-business project, JAE became the first member of RosettaNet Japan among the other Japanese competitors in the connector industry. In this article, we introduce information we obtained through active participation in RosettaNet Japan, and results of a experiment performed through building a system for providing technical information (one of the specifications of RosettaNet), established in cooperation with one of our clients.

1 まえがき

「スピード、コラボレーション（協業）、グローバル」の言葉で表される現在のIT革命時代の中で、企業間ビジネスもインターネットを経由した取引が行われる時代になりました。それらの電子取引の規格を設定しているロゼッタネット仕様による、コネクタ製品情報の提供実験を進めてきました。そのロゼッタネット仕様及びその実験について述べます。

2 ロゼッタネットとは

「ロゼッタネット注*」という非営利団体のコンソーシアムが、1998年2月に米国で設立されました。この団体は、最初デルコンピュータなどの直販メーカーの台頭により、その存亡の危機にさらされた米国コンパックコンピュータ、米国IBMといった主要メーカーをはじめ、パソコン流通に携わる多くの主要企業が参画して、始まりました。このロゼッタネットの狙いはXMLをはじめとする最新の技術を使った「サプライチェーンの大改革」です。(1)

(注*「ロゼッタネット」の名称は、1799年にエジプトで発見された、古代の碑文に刻まれた石「ロゼッタストーン」に由来しています。ロゼッタストーンには同じ内容の布告文が3種類の文字で刻まれていた為、3つの異なる言語を対応づけることができました。ロゼッタネットの目的は、企業間のプロセスの標準化であり、各社が社内で使っている固有の手法には手をつけません。ロゼッタネットを最初に提唱し

たエジプト出身のファデイ・シャヒデ氏が、このロゼッタストーンになぞらえて、「ロゼッタネット」という名称を作りました。)

2.1 ロゼッタネットの守備範囲及び今までの流れ

この主要参画企業グループが、「ITボード」と呼ばれるボードメンバになり、企業間の仕事のやりとりの標準化を進めています。その後1年を経過して、その活動の有用性が認められ、パソコンの製造に関与する半導体供給業者、カスタマ、コネクタメーカ、電子部品メーカ及びデストリビュータのそれぞれの主要企業が集まって、「ECボード」と呼ばれるボードができ、そこを中心に、パソコンの製造に関する企業間の仕事のやりとりの標準化が進められています。

この米国での活動が、グローバルに展開する様になり、このロゼッタネットの日本支部となる「ロゼッタネット・ジャパン」が、2000年4月に主要企業46社が参画して、設立されました。(2000年11月8日現在76社が参画中)当社は、当初より主要メンバーとして参画しています。

一方、地域的にも、既にヨーロッパでこのロゼッタネット活動は展開されていますし、アジア地区でも、日本の他に、2000年9月に「ロゼッタネット・シンガポール」、10月に「ロゼッタネット・台湾」が、11月に「ロゼッタネット・韓国」が相次いで設立され、地域的にも各拠点が設立される予定が進んでおり、グローバル化が急速な勢いで、進められています。

ロゼッタネットの組織図を図1に示します。

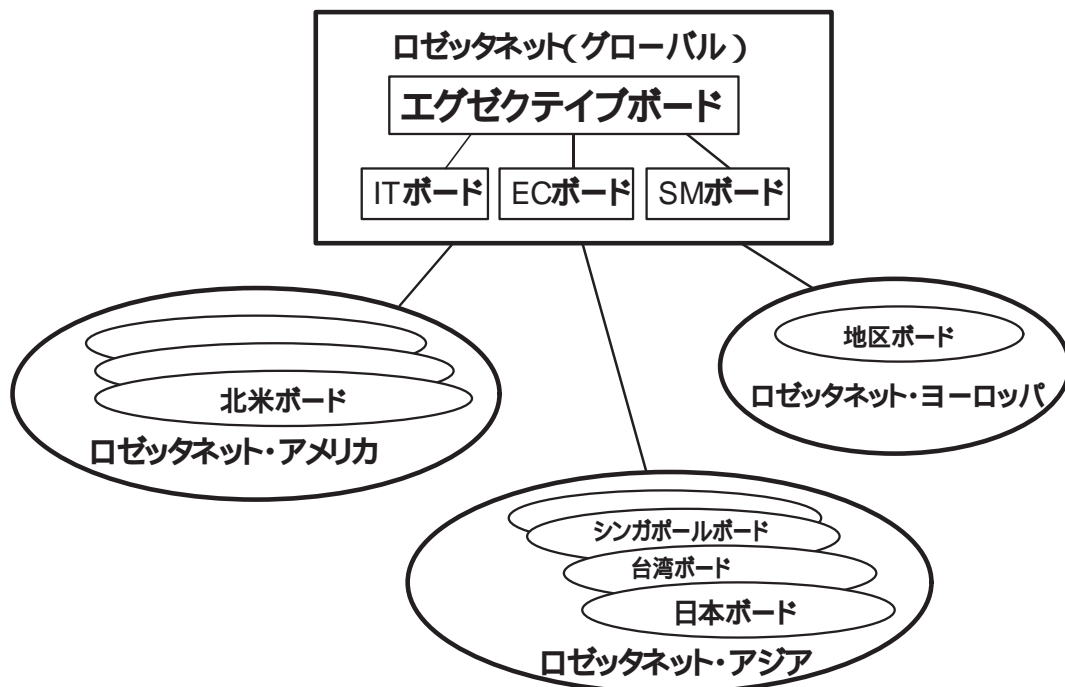


図1 ロゼッタネットの組織図

なお、2000年10月に、半導体製造に関する主要企業19社が参画して、「SM ボード」が設立されました。また、携帯電話や家電関連にも拡張していく計画も進められており、更に隣接する業界からの問合せも増えています。

ロゼッタネット対象業界の拡大及びロゼッタネット組織自体のグローバル化が、まさにインターネット・スピードと呼べる勢いで進んでいます。

2.2 ロゼッタネットの活動

まず、このロゼッタネットの活動には、標準となる膨大な各種仕様書の作成作業があります。また、仕様書作成作業と共に、仕様を実際の業務に取込むべく、実証実験が並行して行われております。更に、米国では年3回行われるEConcert Day での活動報告会が催され、その参加者は毎回倍増の勢いで増えています。なお、2000年10月10日のEConcert Dayでは約750名(日本から45名)が参加しました。

日本でも2000年7月及び11月のフォーラムという形で活動報告が行われています。

EConcert Day ... ロゼッタネット参加各社の、実用化促進のためのイベントデー。参加各社はこの日を目標として、パートナーとなる会社と実装準備を行う。

3 クラスタ及びPIP (Partner Interface Process)とは

ロゼッタネット仕様は、各企業内の業務には直接関与しない、企業間の各業務をインターネットを通じて、人手を掛けずに、スピーディに処理していこうとしております。クラスタと呼ばれる企業間の業務を、6つに大分類しています。

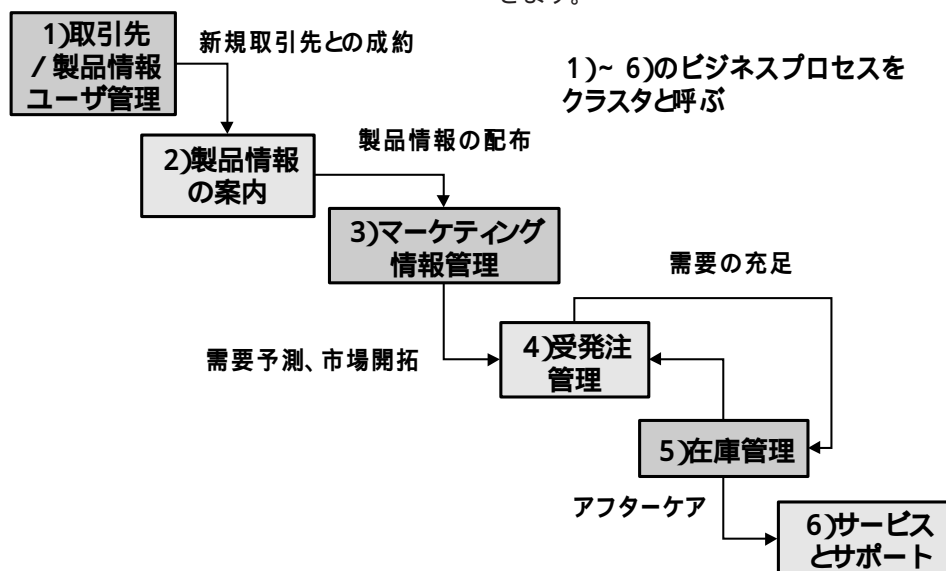


図2 ロゼッタネット仕様の企業間ビジネスプロセス - クラスタの流れ -

そのクラスタの下に、PIPと呼ばれる企業間取引きを効率化するために、ロゼッタネットにより定義された一定のルールがあります。現在6つのクラスタと、その下にある100以上のPIPを策定中です。

図2にロゼッタネット仕様の企業間ビジネスプロセスをクラスタの流れで示します。

4 PIP2A9

図2のクラスタ2の中に、PIP2A9があり、これは「電子部品の技術情報に関する照会」のプロセスを規定するPIPです。

4.1 PIP2A9の目的

PIP2A9は、利用者の照会に応じて提供者が、電子部品の製品情報を返送することを目的とします。

このPIP2A9は、ECサプライ・チェーンで、利用者に一貫性があり、実装方法に関係なく、利用者がいつでも必要にときに、部品情報をコンピュータが読み取り可能なフォーマットで受け取ることができる点に重要な価値があります。

情報を、コンピュータが読み取り可能なフォーマットで受け取れば、ソフトウェアによってその情報を、利用者内部のデータベース、EDA (Electronic Design Automation : 電気回路設計用CAD) ライブラリへの取り込み、および人が読み取り可能なフォーマットへの変換を自動的に行えます。従って、データを手作業で再入力する必要はないため、入力エラーがなく、また、種々の情報提供者のウェブサイトから、人が読み取り可能なフォーマットで作成された情報を手作業で取得するより、時間、およびコストをかなり削減できます。

PIP2A9は実際の情報交換プロトコルだけを規定しています。照会を作成したり、返答された情報を実際に使用するメカニズムは、利用者独自のメカニズムであると考えられ、このPIPでは規定していません。

4.2 ECTD (Electronic Components Technical Dictionary)

部品情報を表現する標準を辞書と呼んでいます。PIP2A9で必要な共通のプロパティの定義や制約はECTDで定義されています。

5 PIP2A9の実証実験

当社では、ロゼッタネットジャパンとしての『EConcert Day』(2000年10月10日)において、日本電気株式会社(以下 NEC 社とします)に対する PIP2A9 によるコネクタ製品情報の提供の実証実験(パイロット運用)をスタートさせました。

これは、日本電気株式会社からのロゼッタネット PIP2A9 に準拠したコネクタ製品情報・仕様情報の照会に対し、当社のデータベースからやはり PIP2A9 に準拠した応答を生成、送付し、送付された応答メッセージが NEC 社の資材データベースに取り込まれるというもので、図3のようなシステム構成イメージで行われました。

今回実証実験を行った背景には、

- ・ NEC 社サイドとして、メーカー提供の電子部品情報活用のため、ロゼッタネット標準にて自社資材システムに取り込む
- ・ 当社サイドとして、売り込みのための、すでに蓄積されたコネクタ製品情報をロゼッタネット標準で提供するというそれぞれの目的がありました。

また、特に当社としては社内で蓄積された情報をロゼッタネット標準に変換して提供することで、複数の情報提供形態を一つの情報ソースから提供できる点にメリットを期待しました。

実験の状況については、2000年10月の時点では、ロゼッタネットでも PIP2A9 の最初の公開バージョンがリリースされたばかりのため、実装準備上はプレリリース版を利用しました。また ECTD もバージョン 1.0 を使用したものの、現在においても整備途上であるため、本実験の結果、部品技術情報の表現上の問題が多数抽出され、これらを標準類(PIP、ECTD)の課題として、ロゼッタネットにフィードバックすることができました。

一方、一元化された情報リソースからの情報提供の実証という観点からは、ロゼッタネットベースでの提供が可能であることの目処が立った点において成果であり、その前提として、情報表現の標準化の重要性と標準への積極的な働きかけの必要性を認識させられました。

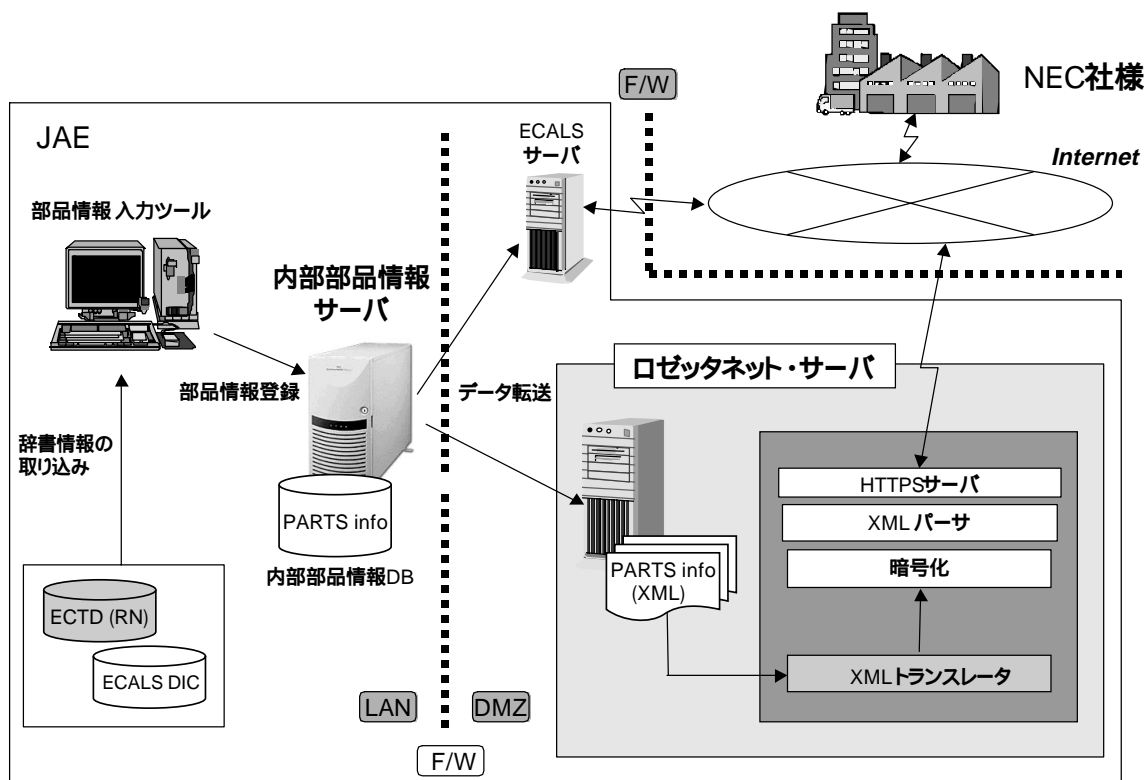


図3 NEC社 - JAE システムイメージ

本実験は、PIP2A9、ECTDともまだリリース直後であり、以前には他の実装事例がないため、世界でも初めての事例としても評価できるものと思われます。

6 今後の展開

このロゼッタネットの活動は、米国において1998年2月に組織化され、2000年2月から実証実験が始まりました。日本では、2000年4月からロゼッタネットジャパンとしての活動が始まり、米国で作成された仕様書の翻訳を中心に、解読作業が進められました。2000年10月には当社を含め20社の実証実験が進められました。

グローバルとは言え、まだ米国中心の仕様であるため日本で展開したり、日本と海外とのやりとりには、手直しが必要です。この為、引き続き仕様の翻訳、解読はロゼッタネットジャパンの重要な作業となります。一方、当社独自の取組としては、実証実験で行った製品情報の提供を引き続き行ってまいります。

今後、この製品情報の提供は、データ量を増やすと共に、パートナーも増やし、実用化を行っていきます。更に、他のPIP（受注から支払、需要予測等）についても、実用化の検討、検証に取り組みたいと考えています。また同時に、グローバル化の一環として、海外のパートナーとの実用化推進も図りたいと考えています。

7 むすび

当社では、このロゼッタネット仕様をITを具現化するものの一つという位置付けでとらえています。インターネットを利用したこのロゼッタネット仕様による企業間の業務革新は、その進化を早め、必ずや爆発的に、米国や日本だけでなく、全世界に普及していくものと思われます。

インターネットを使って、瞬時に、企業間のやりとり業務が、グローバルに進められていこうとしています。インターネットに操られることなく、壮大な夢を持って、真にグローバルな活動をやっていく所存であります。

8 謝辞

本実証実験にあたり、様々なアドバイス、有益なご指導を頂きました日本電気株式会社の関係者各位に、深く感謝申し上げます。

[参考文献]

- (1) “XML特集 XMLで企業間プロセスを自動化する”, 日経コンピュータ、1999年6月7日号 p.p.106 - 109 (1999.6)